

# 2024 年度

## 金沢大学教職大学院フォーラム

### 報 告 書

	(頁)
◆ はじめに	1
◆ 全 体 会	4
「教職大学院の取り組み」	
◆ 実践発表	9
「院生(修士 2 年)の修了研究グループ討議」	
◆ 実践構想	26
「院生(修士 1 年)の研究テーマ」	

金沢大学大学院教職実践研究科

## はじめに

教職実践研究科長 吉川一義

金沢大学大学院教職実践研究科では、石川県教育委員会との連携のもと、地域の特性と教育課題に即し、理論と実践の往還を通して県内教育の発展に寄与し得る高度専門職業人の輩出を目指しています。

本研究科は平成28年に設置され「学習デザインコース」と「学校マネジメントコース」からスタートして、今年度、9期生を迎えました。この間、社会の多様化に伴い、学校教育にも様々な課題が山積し、本研究科を志向する学生の関心も学習デザインコースでは、狭義の授業デザインから地域社会と連携した探究的な学びや学校全体でのカリキュラムマネジメントに、また、学校マネジメントコースでは、狭義の学校経営から多様な専門性を有する教員組織の協働や学校・家庭・地域の連携による共生社会の構築へと変容してきました。このような時代の趨勢と県内教育課題に対応し得る高度専門職業人を育成するため、令和5年に2コース制を解消し、対象世界の多様性を総合する探究教育と対人相互作用の多様性を総合して尊重する共生教育の2領域制から成るカリキュラムに改編しました。多様化し複雑化する時代に、地域の教育課題に即して探究と共生の視点から重層的に接近した高度専門職業人の育成に臨んでいます。

さて、毎年度末に「金沢大学教職大学院フォーラム」を開催し、全国・県内の関係者の皆さまに2年間の学修成果を公開しております。今回は、R5年度からの新たなカリキュラムで学修を進めてきた院生の成果報告です。当日は、主催者を代表して森本章治 金沢大学理事・副学長より大学を代表してご挨拶し、石川県教育委員会学校指導課長 北島公之様よりご祝辞を賜りました。全体会では学生による新しい教育課程の一端を紹介しました。続く分科会では、修了生16名の実践研究について発表を行い、大学を含む教育関係者、実習連携協力校、そして、附属学校園の先生方、約130名を超える皆様のご参加をいただき活発な意見交流がなされ、県教育委員会指導主事より指導・助言を賜りました。また、1年次の院生13名は、各自が現在進めている実践研究についてポスター発表を行い、ご参加の皆様からご指導・ご助言を賜りました。本報告書は、フォーラム当日の修了生による発表の概要、質疑応答、指導・助言の記録を収めるとともに、1年次院生が作成したポスターを収録しております。是非とも、お目通しいただき、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸甚に存じます。

最後になりますが、フォーラムの開催にあたり、ご後援をいただいた石川県教育委員会、ならびに、石川県市町教育委員会連合会、そして、金沢大学事務部の皆様のご支援とご協力に心より御礼申し上げます。

2024年度 金沢大学教職大学院

# 実践研究フォーラム 2024

日時

令和7年 3月1日(土)  
12:45～16:40 [受付]12:30～

方法

対面

場所

金沢大学  
人間社会第2講義棟

〒920-1192 金沢市角間町

全体会 …………… 第2講義棟 402講義室  
ポスター発表・分科会 … 第2講義棟 2～4階講義室



金沢駅東口(兼六園口)⑧のりば「金沢大学(角間)」行き乗車、  
「金沢大学(終点)」下車徒歩約3分(JR金沢駅から約45分)

参加費  
無料

事前申込み必要

## プログラム

12:30	12:45	13:20	13:30	14:10	14:20	16:40
受付	ポスター発表	移動	全体会	移動	実践発表	

12:30～13:30

受付 (402講義室前)

12:45～13:20

ポスター発表 (1年次院生 10分×3)

13:30～14:10

全体会 (教職大学院の取組)

14:20～16:40

(グループごとに終了)

実践発表 (2年次院生)

6つのグループに分かれて発表

- ・ラウンド1 (5名) 14:20～15:00
- ・ラウンド2 (6名) 15:10～15:50
- ・ラウンド3 (5名) 16:00～16:40

写真提供：石川県観光連盟

【主催】金沢大学大学院教職実践研究科 (教職大学院)

【後援】石川県教育委員会 石川県市町教育委員会連合会

【お問い合わせ】金沢大学人間社会系事務部総務課 TEL：076-264-5448

E-mail：n-somu@adm.kanazawa-u.ac.jp ホームページ：https://pdte.w3.kanazawa-u.ac.jp

# 2024年度 金沢大学教職大学院 実践研究フォーラム 2024

実践発表は、グループに分かれて行います。

今年度は対面での開催です。

※当日は、どのグループにもご自由にご参加いただけます。

## 実践発表内容

グループ	ラウンド	発表者	研究テーマ（変更される場合があります）
A	1	石坂 陽 (金沢市立千坂小学校)	小学校社会科授業において思考したことを表現へと移行させる手立て －資料に着目させる直接的な発問と間接的な発問を中心に－
	2	亀田 唯鈴 [学卒]	感性的思考と論理的思考を組み合わせる言葉を豊かにする小学校国語科の授業づくり
	3	土屋 海奈 (加賀市立湖北小学校)	「共生の学級づくり」を志向する教員組織の開発的研究
B	1	勝泉 日々好 [学卒]	中学校数学科の図形領域における発見法に基づく授業のデザイン －証明の発見的機能に着目して－
	2	岡元 恵里樹 (金沢市立野田中学校)	探究的な学習を実現できる中学校理科の授業づくり －「学習する組織」の視点による理科部会のマネジメントを通して－
	3	前田 景子 (野々市市立布水中学校)	中学校理科における概念形成を目指す学習デザイン －思考をイオンモデルで表現しながら協働的に学ぶ－
C	1	中村 綾 (石川県立金沢西高等学校)	高等学校英語授業における生徒一人一人のエンゲージメントを高める方法を探る －スピーキング活動 Small Talk を通じて－
	2	中松 雅貴 [学卒]	生徒の自律的な価値観形成を目指す高等学校「公共」の授業 －哲学対話的アプローチの実践を通して－
	3	沖野 みのり [学卒]	高等学校における地域教材を用いた歴史の授業デザイン －未来を生きる力の育成を目指して－
D	1	池田 未来 (金沢市立中央小学校芳齋分校)	特別支援学級国語科で言葉をつなげて学び合う子の育成 －関わりながら学ぶことの楽しさを感じる授業を目指して－
	2	岡部 亜希子 (石川県立いしかわ特別支援学校)	知的障害児本人の願いをふまえたニーズの読み取りと発達支援に関する実践的研究
	3	宮崎 仁美 (石川県立明和特別支援学校)	知的障害児における量の大小判断の学習過程に関する研究
E	1	竹田 響 [学卒]	中学校理科におけるPBL (Project-Based Learning) の授業デザイン －IQWSTに着目して－
	2	西井 陽一 (石川県立野々市明倫高等学校)	高等学校生物基礎におけるPBL (Project-Based Learning) のデザイン研究 －IQWSTの枠組みを視点として－
F	2	金子 啓太 (白山市立北陽小学校)	小学校体育科における学年会議を活用した対話型、活動型の授業研究の在り方
	3	岩崎 裕太 [学卒]	高校の保健授業における「当事者意識」を育む授業デザイン

( ) は、現職院生の所属先

お申込み  
方法

参加を希望される方は、Webサイトの専用フォームからお申込みください。

<https://forms.office.com/r/sycCkAuSky>

【申込み締切】 令和7年2月21日(金)

申込フォーム  
QRコード



# 全 体 会

## 「教職大学院の取組」

### 【 発 表 者 】

鈴木 瞬 （金沢大学大学院教職実践研究科・准教授）

浅本 拓哉 （金沢大学大学院教職実践研究科・院生）



# 金沢大学 教職大学院での学び

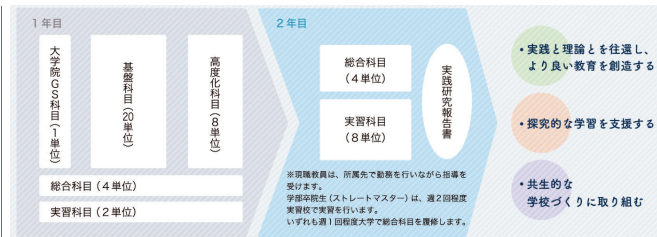
金沢大学教職大学院教職実践研究科M1  
浅本拓哉

本日の内容

1. 大学院での2年間
2. 授業について
3. まとめ

01

大学院での2年間



金沢大学教職大学院HPより

<https://pdte.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

## 探究教育領域



様々な課題に挑む中で深く深い学習を実現し、物事の本質を見極めることを目指します。子どもたちが探究的かつ創造的に学びを深められるように、ICTを活用し、多様な分野の知見を総合させて教育実践力を育てます。

## 共生教育領域



学校や地域社会で多様な人々が互いに認め合いともに生きていくための教育環境の更新を目指します。子ども、同僚、社会の人々の多様性や協働に目を向け、次世代をつくるより良い教育環境を構築する教育実践力を育てます。

金沢大学教職大学院HPより

<https://pdte.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

大学院GS(グローバル・スタンダード)基礎科目	必修科目		選択必修・選択科目	
	研究者倫理			
<b>基礎科目</b> 教育の本質的な理論と最新の実践を学ぶ5領域を設けます。各領域の必修科目に加えて、キャリアや関心に応じて選択できる選択科目を置きます。また、総合大学としての研究成果を活かし、実践的な学校課題に対応する専門的な科目を置きます。	(1) 教育課程の編成・実施	カリキュラムの理論と実践	地域教育支援プロジェクト	
	(2) 教科等の実践的指導法	授業研究とICT活用	教育評価研究	
	(3) 生徒指導、教育相談	スクールソーシャルワーク論と実践	スクールソーシャルワーク研究	
	(4) 学習指導、学校経営	学校マネジメントの理論と実践	学校組織研究	
	(5) 学校教育と教員の在り方	現代教育課題研究	学校危機管理論	
特別支援学校教諭等修習科目取得にかかる科目		特別支援教育の専門知識*		
		インクルーシブ教育実践研究*		
		支援を必要とする子どもの評価と支援*		
		特別支援学校の教育指導研究*		
		特別支援コーディネータ論*		

金沢大学教職大学院HPより

<https://pdte.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

高度化科目	探究教育領域	探究教育の理論と実践	地域社会と探究フィールドワーク
同領域の理論と実践を学んだ上で、いずれかの領域についてフィールドワークやプロジェクトを通してさらに深く学びます。	共生教育領域		学校組織と探究教育のデザイン
		共生教育の理論と実践	探究教育プロジェクト
実習科目		学校実習Ⅰ	子ども社会と共生フィールドワーク
学校における実務経験を通して教職への理解を深め、実際に実践と省察を行うために実習を行います。1年次は、全学校種の教育課程を有する本学附属学校園で実施し、2年次には、県下の連携協力校で実施します。		特別支援学校実習Ⅰ*	学校組織と共生教育のデザイン
			共生教育プロジェクト
総合科目		実践カンファレンスⅠ	学校実習Ⅱ-A
多様な科目での学習内容を発展的に統合するために、長期間にわたって多様な視点から理論と実践を往還します。		実践カンファレンスⅡ	学校実習Ⅱ-B
		共生教育カンファレンスⅠ*	特別支援学校実習ⅡA*
		共生教育カンファレンスⅡ*	特別支援学校実習ⅡB*
		実践研究Ⅰ	
		実践研究Ⅱ	

金沢大学教職大学院HPより

<https://pdte.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

02

授業について

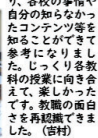
## 授業研究とICT活用

### 【科目の概要】

学習指導要領が規定する各教科における見方・考え方や育成すべき資質・能力とそれらの育成を支援するICT活用について調査および演習を行う。【詳細は、2023.6.2発行参照】

### 【M1生の声】

各教科の核となる見方・考え方や求められる資質・能力についての理論を知ったり、実務家の先生方の優れた授業実践を分析したりと有意義で学びの多い授業です。院生同士のICT活用の現状と課題の情報共有やICTの活用体験もあり、各校の事情や自分の知らなかったコンテンツ等を知ることができて参考になりました。じっくり各教科の授業に向き合えて、楽しかったです。教職の面白さを再認識できました。（宮村）



## 探究教育の理論と実践

### 【科目の概要】

教育や学習について再考し、探究的な学習の意義や特徴を理解し、併せて、児童生徒の探究的な学習を実現する教師や学校の役割について調査および演習を行う。【詳細は、2023.4.21発行参照】

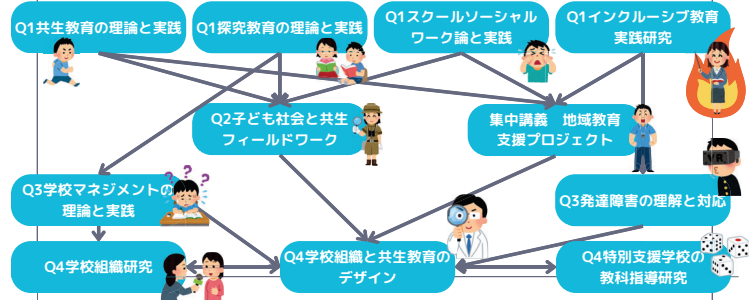
### 【M1生の声】

毎回のテーマに沿って3冊の課題図書から1冊を選んで事前に読み、学んだことや考えたこと、疑問に思ったことをグループで交流します。その中でさらに話し合いたい課題を選び、今度は違う本を読んだ人同士で協議します。この2回のディスカッションの内容や結論を発表したり、さらに全体で議論したりします。教師自身が探究的に学ぶことを体験できるアクティブなワークする時間でした。（起原）



個人的な感想・・・

理論と実践の往還を授業の中、1年の中でさせていただいた



皆で学び、議論しながら深めていったのに私だけが発表？



アレが足りない！



地域教育支援プロジェクトの学びが特に大きかったなあ。学内で完結するのではなく毎週各々好きなタイミングに現場参観ができるのは大変ありがたかった。



いろいろな授業を参観したり、足を運んだことです。現場では絶対にできない体験でした。研究者倫理、学校危機管理論、スクールソーシャルワーク、共生の理論なども現場では学べないことだと思いました。

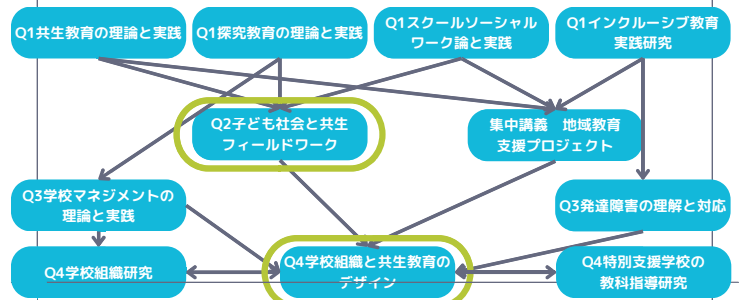


院に来た時、私は今しかできないこと、今からできることがしたいと思っていました。だから、子ども食堂での実習やいろいろな市町の学校、違う校種の学校を参観できたことは狭い考えに囚われていた私にとって影響が大きかったです。また、日々の授業で院生の皆さんと討論できたこともとても大きかったです。勤務している学校の先生ともこんなに深い話をするのはあまりありませんでした。いろいろな考えが聞け、楽しかったです。今まで自分は受け身で、疑問をもたずに「やりすごす」のスタンスでいることが多かったのですが、1年間、いろいろな授業を受けることで「本当かな?」「違う視点で考えるとどうなるのかな?」などと考えようになりました。



個人的な感想・・・

理論と実践の往還を授業の中、1年の中でさせていただいた



Q4学校組織と共生教育のデザイン 3つのテーマ「外国にルーツのある子ども」「異年齢集団」「インクルーシブ教育」



個々が選択し調査へ

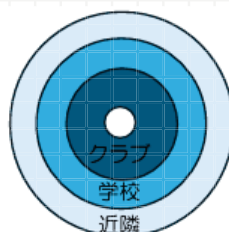


最後に発表

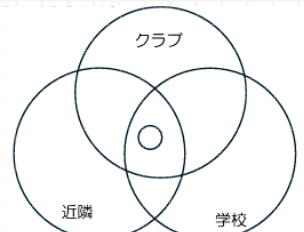
今まで学んだ理論を学校現場に入って検証  
→学んだ後だから感じる違和感（インクルーシブ当事者が望んでいない場合、強制的に共生？）  
→一見すると上手くいってそう、でも（外国にルーツのある子どもの学習言語）

## 03. オランダの異年齢集団について

日本



オランダ





### 03. オランダの異年齢集団について

#### ●まとめ

- ・目に見える具体的な社会（家族、近隣→仕事と生活）を取り戻す  
→学校の中に小さな社会を→異年齢集団
- ・教育は時代とともに刷新していくもの  
→一斉授業？→異なる年齢の子を1グループに  
☆個々の発達速度に合わせる
- ・輪を作って話し合う→集団で決定し、個へ
- ☆教員の手を借りず子ども同士の教え合い、学び合い
- ・子どもの協働性→学校をなるべく社会に近く→異年齢集団
- ☆最年少、年中、最年長の経験を繰り返す→**合意形成と自己決定**

Q2子ども社会と共生  
フィールドワーク

3つのテーマ「フリースクール」  
「子ども食堂」「被災地支援」

皆さんには  
教員を  
辞めて  
もらいます



Q2子ども社会と共生  
フィールドワーク

教員という服を脱ぐ

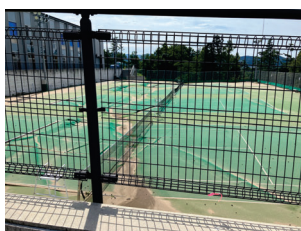


- ・サッカー、子どもだけで遊んでいた。
- ・環境設定、見本としての役割

01 7/3 ブレイカーでの  
支援 @ 能登島



01 7/18 学童への支援  
@ 輪島



- ・子どもたちと一緒にけん玉をした。
- ・子どもたちが寄ってくことに驚いた。身体接触多め。



- ・海洋ごみアートのお手伝い。
- ・先生、大学生と活動した。
- ・先生の包み込むような在り方。

01 8/23 学習支援 @ 珠洲



02 大人が子どもとともに居る  
ことを可能とする〈ケア〉

簡単に言えば子どもの活動を  
「邪魔しない」こと

能登島でも活動した佐藤さん（通称ヒーロー）は「子どもと一緒に遊んでいるだけ」といいながら、子どもの考えたことを決して邪魔しない、私から言えば「配慮」があった。例）木に引っ掛かった玩具七夕まつりの計画時点でも馬渡さんは「子どもたちが考えたことを尊重したい」という方針を語っていた。



02 大人が子どもとともに居る  
ことを可能とする〈ケア〉

被災地では子どもとともに居る余裕を大人たちが持っているか

支援者として入っている時点で、私たちは子どもたちと〈ともに居続ける〉ことはできない。地域の大人たちが子どもとともに居られない間の「つなぎ」でしかない。これを地域の方に返す日が必ず来る。CFA談 支援者が入ってよかったこと。三崎中教員談





## 02 大人が子どもとともに居ることを可能とする〈ケア〉

せめてその時間だけは  
〈子どもらしく〉いられるように

学校周辺でも被害がまだ残っている。  
がれきの間で野球をする二人の子どもの姿もあった。  
ずっと被災地域を見続ける、ずっと大人の顔を見て空  
気を読み続けることがないよう、子どもたちと同じ方  
向を見て遊べる時間を少しでも持ちたい。

### Q2子ども社会と共生 フィールドワーク

4つのテーマの

- ・学童保育所
- ・フリースクール
- ・子ども食堂
- ・被災地支援

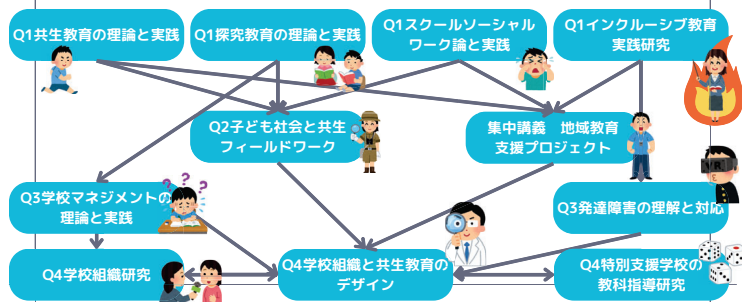
### 共生教育プロジェクト

年間を通したサービスラーニング  
による学びへ

## 03

まとめ

個人的な感想・・・  
理論と実践の往還を授業の中、1年の中でさせていただいた



様々なところで重なりが

- ・「私たち抜きで、私たちのことを決めないで」
- 能登とインクルーシブ教育、「」の視点
- ・ 絶えずカテゴリの更新が必要
- 共生と探究
- ・ 読書対話 → 探究
- ・ 外国にルーツのある子ども、特別なニーズを持つ子ども
- 学習言語の獲得



2つの柱「共生」と「探究」